

第11回復興計画推進会議の意見(概要)

1. 椿物語とグラウンドゴルフの活動状況について

①椿物語について

平成26年度南三陸椿ものがたり復興レポートにより、大学生や小学生、災害公営住宅入居予定者の皆さんとの椿の避難路づくり活動等を行い、また、中学生から椿の種が寄付され、苗木を育て始めました。10月7日から9日まで、「椿のたねっこひろいバスツアー」を志津川・歌津・戸倉の3地区で実施する。(住民委員)

②グラウンドゴルフについて

雨の降らない限り、平日の午前中にグラウンドゴルフをやっている。また、12月ぐらいから今の場所が使えなくなるので、町には代替りの場所を見つけて欲しいと考えている。(住民委員)

2. グループの討議結果

(1) 南三陸町 住環境の向上に関する提案書(案)について

①提案書の構成について

- ・高台に移転してからのことだけでなく、移転するまでのここ2～3年が大事と思うので、その間に何をすべきかの提案が必要と思う。(学識者)
- ・現在、志津川地区や歌津地区、戸倉地区でまちづくり協議会が開かれ、そこで集会所や公園の利用方法などを検討している。(町)
- ・くらしの懇談会でこれからのコミュニティづくりについて話し合いをしている。(住民委員)

②買い物環境の向上に関する提案について

- ・提案の中に、「引きこもりや孤立化」を予防するため、という理由を明記した方がよい。(学識者)
- ・「買い物支援」だと在宅ケアが前提であるが、積極的に外出してもらうことが目的なので「買い物の機会づくり」に修正した方がよい。(学識者)

③移動の利便性向上に関する提案について

- ・町では町民バスの有料化を検討していると聞いた。南方地区など登米市内の仮設住宅には無料を継続すると聞いている。(住民委員)
- ・児童・生徒の社会勉強になるので専用のスクールバスでなく町の人たちと一緒に乗るバスでもよい。ただ、下校時間に合わせた運行を望む。(住民委員)
- ・町民バスのデザインが統一されていないので、一目でわかるようなラッピングやネーミングを検討してほしい。(住民委員)

④交流の場の創造に関する提案について

- ・集会所の鍵を開けなくても交流ができるように、高台団地の集会所の縁側（テラス）を広くしてもらったところがある。（住民委員）
- ・アイデアとして、「祈念公園」でグラウンドゴルフをできるようにするというのはいかがでしょうか。（住民委員）
- ・商店街に子供たちの集える場所や大人たちが集まる場所があると、地域の大人たちで見守りができ、共働きの親にとって子育てのしやすい環境になると思う。（住民委員）
- ・町の図書館にカフェがあると良いと思う。常設でなくても、米沢市で民間団体がやっている「移動図書館カフェ」などが良い事例としてある。（有識者）
- ・スポーツだけでなく、本を読みたい子供たちもたくさんいる。その機会が欲しい。（住民委員）
- ・交流の場に加えて、活動を発表する場が欲しい。町の広報等に活動の発表スペースを作って欲しい。（住民委員）
- ・「いろいろな場所で、いろいろな交流ができる場づくりを検討する。」という文章はよくわからないので、やることを明確にすべきである。（住民委員）
- ・会議からの提案なので「検討する」のではなく「実現する」に表現を変えると良い。（学識者）

（２）働く場の状況と課題について

①特区による対応

- ・浸水区域の企業誘致ゾーンは、企業の立地がなかなか進んでいない。
- ・民間だけでは難しいのではないかと。特区で対応してはどうか。

②ごみ処理と併せた取組み

- ・現在、ごみ処理は気仙沼市に焼却をお願いしているが、自分のごみは自分で処理すべきではないか。
- ・このため、クリーンセンターなどを設立して、町内でごみ処理をすることによって新たな雇用を確保することが考えられる。
- ・バイオマス処理施設とセットにするなど、ごみ処理といろいろなことを合わせると、さらに雇用の場が広がっていくのではないかと。

(2) 働く場の状況と課題について

③働かない人への対応

- ・現状の雇用形態は緊急雇用が中心になっているが、今年度で緊急雇用創出事業が終了予定のため、離職者が増加する可能性がある。
- ・また、失業保険や義援金を生活費にして働かない人が、50歳代以上を中心に増えてきていると考えられる。
- ・特に、働かない人の8割くらいが男性であり、船を無くした人や後継者がいない漁業従事者に多いようである。
- ・風評被害の問題もあり、漁業が先細りになってしまっているのではないかと。

④若い人が漁業に就きやすい仕組みづくり

- ・若い人が漁師に就ける仕組みが必要ではないか。
- ・田の浦地区を支援している滋賀県立大学の例のように、都会の若者には漁業が魅力に感じられるところがあるのではないかと思う。
- ・町外から南三陸町の漁業で働く人を増やすようなことも考えても良いのではないかと。

⑤Iターン、Uターンの誘導

- ・町内の若者は一旦外に出た方が良く、南三陸町に魅力がないと思っているが、外に出てみて故郷の良さに気が付くことがあると思う。
- ・鮭的人材育成等により、Iターン、Uターンを促進することを考えられないか。

⑥資源の活用

- ・南三陸町には、漁業のノウハウなどの資源はあるが活用されていない。若い人と働いている人の接点がないことが課題ではないか。
- ・今働いている人から次の世代への交替のタイミングを考える必要がある。
- ・もっと南三陸町の強みをアピールする必要がある。児童館などの場を活用して、子供たちにも現状を紹介していくようなことも必要ではないか。

⑦自分たちで仕事をつくることも必要

- ・自分たちで仕事をつくり出していくことも必要ではないか。
- ・祈念公園でお祈りに来た人に花卉を販売するなど、必要なものを必要な場所で提供するようなことを考えていくと、働く場を創出することにもつながっていくのではないかと。

3. 学識者委員・有識者委員の講評

1) 平野副委員長

- ・今回の資料は、働く側の視点からみた内容となっているが、経営サイドからみた情報が欲しい。
- ・資料に震災後の事業再開状況が紹介されているが、企業の投資状況や廃業することになった背景など、企業側の動きが分かる資料があると良いのではないかな。

2) 三浦委員

- ・「よそ者」、「ばか者」、「若者」を活用して、南三陸町の元気をなくした人へのカンフル剤とすることも一つの手である。
- ・年寄りでも皆の役に立てるとしてもらうことが重要である。

3) 稲葉委員

- ・南三陸町で起業の勉強会を開催するなど、事を起こすことが重要である。事業再開などのハードルは何か、身近に相談する人がいないのではないだろうか。起業の相談ができる場があると良いのではないかな。
- ・長野県の小布施町の町長の家は、誰でも来やすいオープンな環境になっていて、そこで子供たちや住民の交流の場が生まれている。このように今ある場を役立てて、交流の場をつくっていくことも大切ではないかな。

4) 宮原委員長

- ・推進会議の場から声を出して、それをきちっと伝えて行くことが重要である。
- ・様々な意見を率直に出し合って、情報を持ち寄り、皆が動きやすい提案を一緒にして行けたらと考えている。